

帯笑園 文人墨客愛した庭園

県内関係では、沼津市原の「帯笑園」が新たに登録記念物とする

よう答申された。また、史跡富士山と史跡興国寺城跡＝同市根古屋＝の追加指定（指定範囲の追加）も答申した。

県内で登録記念物として答申されるのは帯笑園が初めて。帯笑園は16世紀後半に東海道原宿に居を構えた豪農、植松氏の庭園。サクラソウやソテツなど豊富な園芸植物が有名で、多くの公家や大名、文人墨客に愛された。ドイツ人博物学者シーボルトは、その美しい景観や植物見本を「江戸参府紀行」に記した。現在の庭園には来歴を刻んだ石碑や富士山を望む「望嶽亭」の沓

脱石（くつぬぎいし）などが遺存する。

帯笑園は沼津市が2009年に取得し、一般公開に向けて整備を進めている。

元所有者の植松靖博さん（73）＝同市原＝は「地元の保存会や行政の理解と協力のおかげで、庭園の記録が将来にわたって守られることほうれしい限り」と話した。

